

甲子園にいこう!!

県陵の創立100周年が8年後に迫りました。広報部員は創立100周年記念への思いを馳せ、座談会を設営し様々な話題を欲談しました。その中でも特に話題沸騰したものが、高校野球・県陵野球部に関しての思いでした。今回はこの座談会の様子を紙上企画としてお伝えしてみたいと思います。



2010年夏の大会に松本工業高校が出場し、松本市内で甲子園出場経験がないのは、県陵、蟻ヶ崎、筑摩高校の3校となり、「おしり火がついた」と言えば言葉が悪いですが、野球部OBに限らず同窓生の間では期待の声が多いことは確かです。しかし、注目が集まる高校野球だけに、全国大会出場が「至難の技」であることもまた事実です。そこで今回広報部では、元県陵野球部主将で社会人野球セイコーエプソンの監督を務めた滝沢公司さん(高25回)を招き座談会を行いました。

県陵OBの中でよく聞かえる一つに「野球部を全国大会に出場させたい」という話題があります。高校野球の全国大会と言えば、言わずと知れた「甲子園」。古くはサッカー部や柔道部など、近年は山岳部のインター杯準優勝などで県陵の青史を振り返れば全国大会出場の実績は幾多とありますが、こと野球部に関しては全国大会の出場経験がありません。



白虹会 2年 山崎 晴音

永田 例え仮に強化ということを考えてときに、松商学園で屋外練習場や筋トレができるトレーニングセンターなどを創部百周年に併せて整備した

と聞いていますが、億単位のお金がかかっています。こうした設備がなければ「甲子園」に出場するのは無理でしょうか？

滝沢 運動能力が高いという意味でも重要な要素です。「意欲のある選手を集める」という意味でもやはり重要だと思います。甲子園に行くぞ」という選手の高い気持ちですね。あと野球というスポーツの特性を考えると、基本はバッテリーです。投手と捕手が揃っていれば、当然可能性は高まります。実際は中学生以下の指導者は松商出身者が多いですね。本人たちはどうしても甲子園に行ける確率が高い方

広報部座談会 県陵創立100周年に向けて 我々のやり残したこと 野球部全国大会(甲子園)出場

山田 松商だと土手ファンがいると思います。ヤジとか結構飛ぶんでしょ？



滝沢 実はああいう「見られて」環境の中で練習するということとは、結構成長する要素なんです。サボれないし、緊張感も違いますし。OBやPTAが気楽に練習を見学できるような環境づくりも必要ですね。

小沢 近所の人が見に来てくれるかも知れないし、それも生徒たちにとっていい刺激になると思いますよ。

上條 今回の県陵生は女子生徒が多いこともありますが、10年前と比較して、勉強の方も相当負荷がかかっているように、気の毒な面もありですね。



菅原 九十年の時の山岳部のインター杯準優勝も、顧問の松田先生の指導力もあって、卒業した先輩が

滝沢 県陵は進学校なので、勉強で負荷がかかることはやむを得ないことだと思いますが、練習時間が無いなら無いなりに工夫したらいいと思います。「甲子園に行くのは東大入るより難しい」と言う人もいますが、見方を変えれば効率よく練習して甲子園に行けるとすれば、勉強



高木 最近中高一貫教育について話も出ています。勉強もそう



永田 まずは雰囲気盛り上げるとい意味では、バスを仕立てて、現役の野球部の生徒を甲子園に連れていくというのはどうでしょう？同窓生の中にも参加したいという人がいれば一緒に参加してもいい。実際に甲子園に行つて高校野球を生で見れば、生徒たちもOBも「甲子園ってこんな素晴らしいところなんだ」ということを感じてもら



永田 結構学校側にもプレッシャーになってしまふ部分もあると思いますが、野球部のOB会や同窓会などの外部部隊も全面的にバックアップするから、安心して指導に専念してもらえ



野球部の練習風景



と聞いていますが、億単位のお金がかかっています。こうした設備がなければ「甲子園」に出場するのは無理でしょうか？

滝沢 もちろん設備が充実している方がいいんですが、無ければ無いなりに工夫すればできないことはないと思います。全国の出場校全てが近代的な施設で練習している訳ではありません。浅川 私の息子が中学で野球をやっているんですが、今年、清水中学に全国大会に出場する双子の兄弟がいます。そういうレベルの高い中学生を集めるスカウティング活動なども重要な要素となってくると思うのですが、その辺はどうでしょうか？



北信越五県の中で、審判の世界では長野県はやや遅れをとっていましたがここ数年長野県サッカー協会の地道な努力が実を結び、県内三人目の1級誕生で新潟県に次いでレベルの高い県となりました。サッカーの競技力向上は選手の質、意欲、取り巻く環境、指導者が大切ですが、同じように大切にしたいのが審判です。そんな意味で一時はサッカー後進県と言われた長野県にJ-1のチームが生まれ、若い意欲のある1級審判員が誕生したことは感無量です。国内で最年少の1級というところは、国際審判への道が最も近いということも意味します。実質的に松本県ヶ丘高校サッカー部が母体となつて誕生した松本山雅がJ-1に定着、松本がサッカーの街として全国に発信し、近い将来ワールドカップで小出氏が主審を担当するようなことが決して夢でなく実現出来るものを感じ、松本県ヶ丘高校と同サッカー部としてこんな嬉しいことはありまして、中信地区から初、母校からの初の1級。今後に期待しましょう。(高20回 上條 恒嗣)

国内最年少 1級審判員誕生



松本山雅FCのJ-1昇格の記念すべき年に嬉しいニュースが飛び込みました。松本県ヶ丘高校サッカー1部OBで信州大学に進んだ小出彦彦氏が24歳の若さで日本サッカー協会(JFA)の1級審判員に認定されました。全国的にも数少ない1級に国内最年少での認定です。



白虹会 2年 細田 紗月

ホームページリニューアルに伴う URL 変更のお知らせ
ホームページをブックマーク(お気に入り登録)されている方は新URLにご変更ください。
新URL => http://kenryo.org
新mail => info@kenryo.org

がんばってます!!

県陵OB